

巻頭言

個性輝く大学としての歯科医学研究

明海歯科医学会 会長

安井 利一

平成 19 年 1 月 11 日に明海歯科医学会が設立され、これまで歯学部から発刊されていた雑誌「明海大学歯学雑誌」は「明海歯科医学」として生まれ変わることになりました。学内雑誌から学会雑誌になったことの意味は大変大きいものであります。大学の使命には教育・研究・社会貢献の 3 本柱があり、すべての教員に高度のバランスを保ちながら、自己実現と大学の発展を目標にして日々の生活を送っていただきたいと願っています。

明海大学の建学の精神は「社会性、創造性、合理性を身に付け、洋の東西を問わず、広く国際未来社会で活躍しうる人材の育成」であります。大学の教育カリキュラムは、この建学の精神によってフレームがつけられ、具体的な科目設定と時間割が示されています。我々の使命は、この建学の精神に基づく歯科医師の養成にあります。しかし、歯科医師としての臨床力ばかりに目が行ってしまいがちで、学生の研究能力の育成にはまだまだ改善の余地があるのではないかと反省しています。大学院歯学研究科の学生諸君の論文を審査する時、建学の精神が底辺を流れているのだろうかと思えることも多々あります。

我々には、高等教育機関としての役割、歯科医師養成機関としての役割があります。同時に、個性化と国際化ということも忘れてはなりません。

高等教育機関としての大学について、平成 10 年 10 月に大学審議会が出した答申「21 世紀の大学像と今後の改革方策について」の副題は「競争的環境の中で個性が輝く大学」であり「知の再構築」であります。具体的には、①課題探求能力の育成を目指した教育研究の質の向上、②教育研究システムの柔構造化による大学の自律性の確保、及びそれを支える③責任ある意思決定と実行を目指した組織運営体制の整備、さらにこうした大学の取組についての④多面的な評価システムの確立による大学の個性化と教育研究の不断の改善、という四つの基本理念を示しています。そして、その理念に沿って総合的かつ具体的な改革を実施していく必要があると提言しています。

我々は、建学の精神に基づいて、今後とも尚一層、地域社会の中で、国の中で、あるいは世界の中で輝いていかなければなりません。

現代は、スタンダード化（標準化）あるいはマニュアル化の時代といわれており、この流れはますます強くなってきています。歯科医学領域においても、歯学教育モデル・コア・カリキュラム、共用試験、診療ガイドラインなどはスタンダード化（標準化）やマニュアル化の柱かもしれません。そのような中で生活しているという実感を常に持つ必要があります。特に、大学教育や研究において、「競争的環境の中で個性が輝く大学」というフレーズを片時も忘れてはならないと強く思います。教育、研究、さらに社会貢献の分野で「個性が輝く」成果を作り上げる必要があります。その一つの試金石が明海歯科医学会の発足であります。今後の明海歯科医学会のさらなる発展を切に願っています。